

# 秋祭り 54%「将来不安」

## 播磨100地区アンケート

### 少子化担い手足りず

秋祭りの開催について、神戸新聞社が兵庫県播磨地域100地区の関係者にアンケートを実施したところ、54%が「将来の開催に不安がある」と答えた。少子化や屋台の担い手の高齢化を理由に挙げており、既に女子も参加する地区やアルバイトで担い手を雇っている地区もある。祭りどころ播磨でも、人口減や年齢構成の変化が、伝統文化の継承に色濃く影響している。

アンケートは、秋祭り「ちらいもいえない」。が集中する10月上旬、姫路、加古川、三木市など地区に、最も影響が大きい播磨の12市8町100地区で行った。氏子や神社関係者ら運営に関わっている人たち100人に「開催状況」や「対策の有り無」「将来の不安」など6問を尋ねた。

秋祭りの開催について、神戸新聞社が兵庫県播磨地域100地区の関係者にアンケートを実施したところ、54%が「将来の開催に不安がある」と答えた。少子化や屋台の担い手の高齢化を理由に挙げており、既に女子も参加する地区やアルバイトで担い手を雇っている地区もある。祭りどころ播磨でも、人口減や年齢構成の変化が、伝統文化の継承に色濃く影響している。

### ■将来の祭り開催について



### ■不安の理由は

高齡化(9)、経済的な問題(2)、その他(5)。

「難しかった」と答えている地区は36地区。「難しくなってきた」と答えている地区は48地区と半数近い。「不安がない」の31地区を占め、16地区は「地区を大きく上回った」と答えた。

「開催状況」や「対策の有り無」「将来の不安」など6問を尋ねた。具体的なには、女子の乗り子や年齢制限を緩和したり、参加する子どもの年齢制限を緩和したりして人手を確保する地区が目立った。他

「開催状況」や「対策の有り無」「将来の不安」など6問を尋ねた。具体的なには、女子の乗り子や年齢制限を緩和したり、参加する子どもの年齢制限を緩和したりして人手を確保する地区が目立った。他

「開催状況」や「対策の有り無」「将来の不安」など6問を尋ねた。具体的なには、女子の乗り子や年齢制限を緩和したり、参加する子どもの年齢制限を緩和したりして人手を確保する地区が目立った。他

銀閣瑞雲 (日展無鑑査出品)

木版画の世界展

シユテイ・オンク信ト

11月13日まで明石市立文化博物館

充実のセキュリティとレポート

J-COM NET

0120-999-000

### 大震災被災者

死者 1万5825人  
不明者 3819人  
計 1万9644人  
(19日現在 警察庁調べ)

避難 7万1578人  
(6日現在 復興対策本部調べ)

【好評発売中】

## あなたのナビゲ

★悩みがあるから、あなたの人生が変わる一冊

全部、書く

気性、全

全部、書く

## 台湾人にご用心!

あなたに

全部、書く

気性、全

全部、書く

平野稔

宮本常一とあるいた 昭和の日本

あなたの人生が変わる一冊

全部、書く

# 伝統の祭り守りたい

舞を披露する女兒。昨年  
から加わり、祭りの  
維持に役買った三九  
日午後、赤穂市鶴和、  
鳥無荒神社（撮影・小  
林伸哉）

神戸新聞社が播磨の100地区に導いた秋祭りアンケートでは、伝統の  
りを守ろうと、苦悶する女子たちの姿うかがえる。将来に備えて協議  
始めた地区もあり、各地で模索が続く。 (1面参照)

## — 播磨100地区アンケート —

約300年の伝統を誇  
鳥無荒神社（赤穂市）

「天和獅子舞」。9日  
秋祭り、女子で初の  
子、赤穂西小3年の後  
ふしちゃん(8)と、  
威の同2年生希ちゃん  
が獅子の脇で舞を披  
した。昨年からは男子が  
保てず、舞子6人の  
に女兒2人を加えた。

鳥無地区がある同市  
和は千人近い人口を抱  
るが、20歳未満の人口  
14年前から44%減っ  
。大学進学を機に離れ  
吾輩が増え、地元にも  
いない学年も出てき

担い手不足の原因は少  
化だけでは無い。子ど  
は学習塾などで忙し  
、1カ月近くにわたる  
晩の練習も敬遠される  
い。

長年の習わしで舞うこ  
ができなかった女兒の  
加を「すごく残念だ」

## 「女人禁制」見直しに活路

### 近隣地域で担ぎ手融通も

と保存会副会長の中川幹  
彦さん(64)。初めて女兒  
が舞った昨年、会場から  
は驚きの声も上がった。

しかし「参加したい」  
と女兒から手が挙がるよ  
うになり、中川さんは  
「女子の参加で祭りに活  
気が出て存続への道が開  
けた。何としても伝統を  
守りたい」と歓迎する。

兵庫県福崎町の高槻地  
区は、5年前から屋台の  
太鼓打ちを女子小中学生  
にも任せる。今年の秋祭  
りは、乗り子11人中5人  
が女子。髪長い乗り子  
たちが、力強く手を振  
った。

かつては小学4年、中  
学3年の男子に限ってい  
たが、2005年に確保  
できたのは運行に必要  
最少人数の4人。翌年、  
地区総会で協議した。

「男だけの時代でもな  
いだろう」と、女子の乗  
り子を認めることで一致



したが、長年続けてきた  
形へのこだわりも強い。  
折衷案として宮入は男  
子に限ることにした。  
姫路市百寺町土師の  
大年神社では、野田地区  
が今年初めて、屋台の担  
ぎ手の応援を周囲の3地  
区に要請。9日の秋祭り  
では、屋台を担ぐ約30人  
のうち10人前後が「助っ  
人」だった。  
自治会長の宮崎猛さん  
(64)は「少人数で担ぎ、  
屋台が倒れたら大事故に  
なる。他の地区が快く応  
援してくれて大変ありが  
たいが、将来への不安は  
残る」と話した。  
(小林伸哉、有島弘記、  
山岸洋介)

兵庫県警

# 暴力団の参拝拒否を

排除条例基に 県神社庁に要請へ

全国で暴力団排除の動  
が広がる中、兵庫県警  
も、暴力団の集団

同組織部らが毎年元旦に  
初詣に出向く神社にも、

・同忍 6代目組長(69)

が不在の間も構ってい

元旦は篠田組長も加わる  
形で集団参拝を行い、組  
織の引き締めを図る可能  
性もあるとみて、要請す  
ることを決めた。

一方、憲法が定める信  
教の自由の問題もあるた  
め、県警は「暴力団組員  
個人々に対する参拝拒否

は難しいかもしれない。  
だが集団参拝は、暴力団  
の威力を示す活動とな

春日野親方を  
厳重注意処分  
弟子奉行で相模協会  
日本相模協会は19日、

# 担い手維持へ対策8割

## 秋祭りアンケート・東播20地区

神戸新聞社が播磨の100地区に質問した秋祭りアンケート。少子高齢化を背景に、祭りの伝承に苦心する姿が浮き彫りになった。20地区の声を集めた東播では、屋台の担ぎ手の「資格」を広げるなど、祭りを維持するため何らかの対策をしている地区が80%に上った。

## 屋台の参加者「資格」拡大

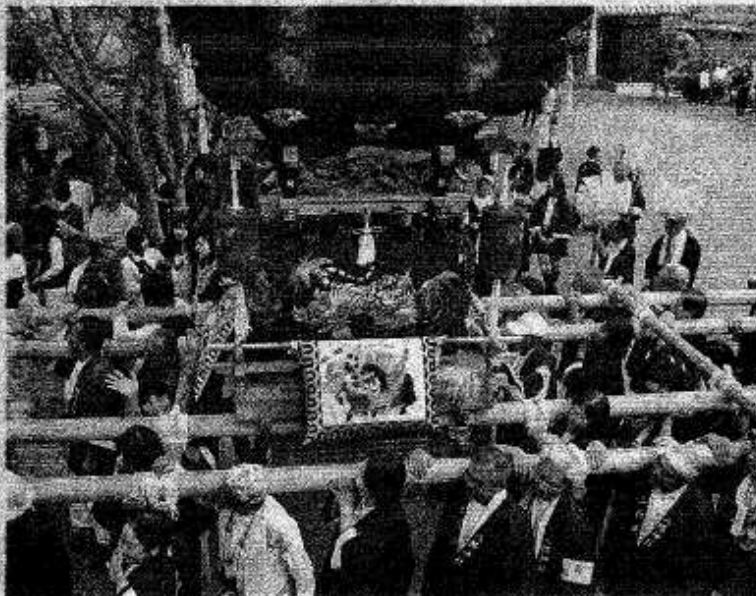
東播の回答を見ると、顔ぶれが多彩に。アンケートした中学生で補う(高砂) 伝統を変えることには祭りの開催は「難しい」1トでは、転居してきた(砂)「な」の回答があつた。「祭りを続けたい」との

「難しい」とした理由で多か 学生バイトを雇う(加古川)▽他地区の住人や、将来の開催に「不安がある」とした理由も同様の結果だった。

播磨全体の結果と比較すると、東播で目立つのは、対策を講じている地区が80%と高い割合を占めたこと。播磨全体の67%を大きく上回った。

運営面を見ると、青年団の活動が低調になったのを受け、主体を自治会や消防団に替えて継続している地区が稲美町で2地区あった。

屋台やみこしの担ぎ手は、かつては一定の年齢に達した若い男性の氏子が中心だったが、今は年が担う乗り子が不足



(大城周子)

お年寄りや女性が力を合わせて屋台を担ぐ上中西条八幡神社の秋祭り=9日、加古川市八幡町上西条(撮影・井上 駿)



消防訓練が中を伝って避難し、職員約100人が初期で救出された。消防や避難方法を確認した。山崎断層南初期消火、避難の三

### あいう

◆地震を想定し加古川市役所で訓練 加古川市役所で19日、年に1度の地震を想定し加古川市役所で訓練した。3階に取り残された職員は、約10分

### 産廃施設計画の意見照会

高砂市梅井地区の産廃施設計画をめぐり、周辺に及ぼす影響などについて、県が登山人市長から聞き取る意見照会を聞き、2月にその実施状況の報告書を提出した。これを受け、県は9月7日、産廃施設に関する県条例に基づき、地域への影響や地域計画との整合性について登市長に回答を求めた。

### しげま

め、編み物を送ろう」という。出来上がった編み物には「心を込めて編みました」などと書いた手紙を添え、箱詰めした。

登市長は「住民に対する事業者の説明は不十分で納得できるものではない」として、住民に十分説明するよう

県民局は「今後、ちりとした回答が市に出ている」として、事業者には十分説明するよう

を通知し、被災者に届ける。(坂本)

青少年の育

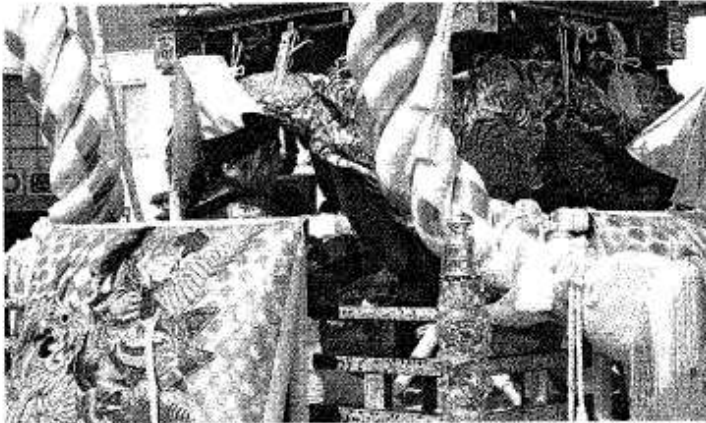
# 秋祭り 深刻な担い手不足

# 郡部で「開催困難」6割

神戸新聞社が播磨の100地区に実施した秋祭りアンケート。西播磨11市町62地区のうち、約4割の25地区が「祭りの開催が難しくなった」と答えた。五つの市と、6町の郡に分けて見ると、「開催困難」は市の3割に比べて郡は6割を超えており、深刻な担い手不足に直面していることが分かる。(一面参照)

## 西播磨11市町62地区調査

現在の祭りの開催について、最多の28地区で「難しい」は「難しくない」が、の25地区を上回った。



秋祭りで、乗り子を務めた女子中学生(左)。祭りを守る工夫が各地で行われている=9日、福崎町福田(撮影・有島弘記)

## 集落外、学生も参加… 将来見据え各地で対策



「どちらともいえない」は9地区。

この結果を市、郡に分けると、郡の「開催困難」は61・1%となり、市の31・8%の2倍近くに上った。市では過半数が「難しくない」と答えた。

一方、将来の開催につ

### 小栗栖健治・県立歴史博物館館長補佐の話

アンケート結果は祭りが抱える課題を表している興味深い。祭りの本来の意義は、自然の恵みを氏神に感謝すること。その意味合いは薄れ、地域の労働環境や少子化をはじめ社会構造が変わっていく中で、維持することが難しくなっていることは間違いない。

### 共同体維持に大きな役割

祭りは地域社会・共同体を維持する上で大きな役割を担ってきた。華やかな祭りの裏側には、役割を分担し、エネルギーを注ぎ込み準備を進める人たちの姿がある。祭りの開催が困難になると、地域社会の基盤が弛緩(しかん)し、コミュニティがなくなり、やがて「地域社会の崩壊」につながる。

祭りの大切さは、受け継いできた地域の方が一番よく知っているから、守るための工夫や努力を重ねていることがうかがわれる。

## 16人英語スピーチ 宍粟で中学生コンテスト

「第6回宍粟市中学校コンテスト」がこのほど、教育長杯英語スピーチコンテスト 同市二宮町東市場の一宮



英語で自分の思いを語る中学生=宍粟市立一宮南中学校

南中学校が開かれた。市立・組合立の8中学校の3年生計16人が、夢やふるさとについて英語で語った。

スピーチは約3分。英語教師ら8人が内容や表現力を審査した。生徒たちは剣道をキーワードに日本と外国文化を比較したり、野球選

### 展覧会

- 姫路** 第30回書友くた姫路出身の洋画家。弟子でつくる白樹会が主催 23日まで、イークレ 79・2822・157
- ゆめふうせん「秋ワク」** 丸投三代吉の「美りの秋&掘り出し作品展」 23日まで、イークレ 79・2822・157
- 古希記念 岡崎雲書作「ワク手作り展」** 25日まで、夢前町蔵本、夢鮮 79・2822・157
- ひめじ。姫路市西八代町の元教師・岡雅造さん** 25日まで、夢前町蔵本、夢鮮 79・2822・157
- 「記憶の中の風景」** 24日まで、城東町野田、歐楽(きらら) 79・2822・157
- 行正勝信 石版画展** 24日まで、城東町野田、欧楽(きらら) 79・2822・157
- 「記憶の中の風景」** 24日まで、城東町野田、欧楽(きらら) 79・2822・157
- ラフ作家** 城の画家 小野勉ミニ 24日まで、一階 79・2822・157
- 回顧展** 24日まで、二階 79・2822・157
- 町、中井三成堂画廊** 79・2822・157
- 丸投三代吉の「美りの秋&掘り出し作品展」** 30日まで、青山北、欲創 79・2822・157
- 居** 79・2822・157
- アジアの国々の美しい布と衣展** 25〜31日、イークレひめじ。200点
- 水彩で巡る風景展** 25日まで、姫路市南 79・2822・157
- 日町の山陽水彩画展** 25日まで、姫路市南 79・2822・157
- 県員、大越元が出品** 25日まで、姫路市南 79・2822・157